

2022年度（令和4年）事業報告（案）

「はじめに」

令和5年5月8日に新型コロナウイルス感染症が第5類感染症に位置付けられました。

これによって、社会全体の動きが大きく変わり、施設における児童の生活・支援の在り方もコロナ禍以前に戻るべく活発に始動しています。

ふり返って、この一年は、さまざまな部面で制約を受けた状況でしたが、児童の生活環境整備や改修、感染症対策に総力を集結し、児童・職員への健康維持に努めた年となりました。また、今後の人材定着化を図るため、「職員雇用を」と増員したことによる人件費等の支出が増額した結果となりました。

しかしながら、法人全体として、質の高い児童へのケア、地域のへの貢献、人材育成に一定の成果を収めることができたと思われます。

今後もより一層安定した経営・運営への基盤作りに努力を傾注して参ります。

各事業報告については、別添資料をご参照下さい。

「舎の基本理念」

- ・福音宣教
- ・社会福祉
- ・国際親善

「支援方針」

- ・私たちはすべての子どもの権利を守ります
- ・私たちは子どもたちの「安心」と「安全」な生活を保障します
- ・私たちは法令を遵守し、公正かつ透明性のある施設運営を行います
- ・私たちは多様性のある子育て支援に努め地域社会に貢献します

1. 養育・療育推進事業

* 現在、入所児童の約8割がネグレクトを含む何らかの被虐待児童であることに鑑み、児童及びその家族への対応、支援を主軸とした養育・療育の推進を図るとともに、児童ひとりひとりに向けて心理ケアなどの個別的対応や必要に応じた家族再統合に向けての話し合い等の家庭支援を実施しました。また自立支援専門相談員と共に自立の多様性を模索し、其々の児童に応じた進路を検討し支援して参りました。

更に里親支援専門相談員を配置し、季節里親・週末里親制度の活用を図りました。

◆ 児童生活支援について

- (1) 個人の課題に沿った支援プログラムの立案、心理ケアの実施
2019年度より実習受け入れ施設として神戸大学と正式に提携
[神戸大学発達心理学科 メンタルフレンド（12名）による
心理療法の実施およびスーパービジョンの実施]（別紙 参
照）
- (2) こども家庭センターとの連携（通所指導・心理判定・一時保
護）
- (3) 学習進路指導における学習塾への修学、学習ボランティアの
活用（小・中・高生対象）
- (4) 個別対応児童の家庭生活体験等の実施
- (5) 各学校・教育機関との連携を図るための交流会・個別カンフ
ァレンスの実施（原田中学校・稗田小学校）
- (6) 児童の権利擁護や苦情等の解決に向けた中学・高校生会の開
催
- (7) 食育を通して、食の重要性を理解させ、行事食や伝統文化に
も触れる機会を提供しました（例：元旦行事食・桃の節句・
端午の節句・お寿司の会・クリスマス会等）
- (8) 個別に小ユニットで児童と職員との春休み・夏休み・冬休み
行事を実施しました（ハイキング・小旅行等）

◆ 自立支援について

- (1) 各児童における自立支援計画を担当職員と自立支援専門相談員の連携・協議により具体的に策定し、年2回の見直しと検討を行いました。
- (2) 調理実習（児童によるお楽しみ料理の会）を実施、高年齢児においては自立のための調理実習の機会を設けました。
- (3) 社会性を担保するためのアルバイト体験
就労を経験することによって経済的自立の重要性を認識させる機会を提供しました。
- (4) 各グループホームにおいて、自立に向けての年齢に応じた生活体験、自活訓練を実施しました。

2. 人材育成推進事業

*自閉症スペクトラム障がいや軽度の知的障がいを含む入所児童への理解と生活支援や援助技術の向上を担保し、ケアニーズの高い児童への対応やスキルを向上させるためにも人材の育成を図って参りました。

- (1) 各研修会（全養・西日本・近畿）各児童養護施設職員研究協議会への参加と協力（オンラインでの参加）
- (2) 研修会後の施設内研修報告会の実施（フィードバック）
- (3) スキルアップ研修会への職員参加
- (4) 市民福祉大学主催の各研修会（ワークショップ、ロールプレイ等を含む）への参加等

3. 分園型小規模グループケアの継続実施（別紙 参照）

グループホーム「和愛」の現状と課題

グループホーム「友愛」の現状と課題

4. 施設設備・機能強化事業

*新型コロナ感染対策として、状況に応じて必要な施設整備を実施しました（児童の各居室・食堂・職員室・廊下などに airdog の配

備・医療用抗原検査キットの購入)

- * 児童の生活環境をより向上させるため、各居室の整備・施設全体のメンテナンスを図りました。
- * 「神戸やまぶき財団」様より助成金を得て、各児童居室及び食堂の床面貼り替え整備を実施しました。
- * 「神戸やまぶき財団」様より助成金を得て、児童福祉施設支援ナビシステム「アイリス」を導入し職員の作業効率及び業務負担軽減を図りました。

5. 防災・防犯訓練の実施 (別紙 参照)

災害非常時等への対応・対策の訓練を行いました。

「中長期事業目標」

- ・ 本園舎屋の建て替えについて
具体的に各関係機関との折衝を進めて参りました。
(株式会社ディ・オー一級建築士事務所と基本設計会議を現在も継続中ですが令和4年度は全4回行いました)

2022年度（令和4年）本園事業報告

○本園処遇担当職員数 16名

主任・家庭支援専門相談員(2)・自立支援担当職員・個別対応職員

男子ユニット職員5名・女子ユニット職員6名*令和4年3月現在の本園の

状況

○1F男子ユニット

*小学生男子3名・中学男子2名・社会人2名

・途中入所児童=1名 中学1年(10月1日入)

・途中退所児童=2名 大学1年(9月1日退)・社会人(11月5日)

○2F女子ユニット

*幼児男子2名・小学女子5名・中学女子3名・高校女子4名

・途中入所児童=3名 幼児(7月25日入)・中学2年(8月26日入)・高校2年(8月26日入)

・途中退所児童=4名 小学2年(9月30日退)・中学2年(令和5年3月30日退)・高校3年(令和5年3月15日退)・高校2年(令和5年3月30日退)

○一時保護委託

コロナ禍で、自宅で過ごす時間が長くなり、虐待で保護された子ども達の一時保護委託要請が急増。出来る限りの受け入れを行ないました。

○リフレッシュサービス

本園児童及び職員の感染があり年度末に収束した後、数名の受け入れを行いました。

○アフターケア

外部からの感染を防ぐ為、前半は電話での対応のみとし、収束した後、具体的なケア対応を図りました。

○行事

・年度前半は休校や外出禁止となり、そのストレスの緩和のために、子ども達が好きな食べ物をUber Eatsで注文したり、お寿司やピザ、ケンタッキーなどのテイクアウトで楽しみました。

・夏の行事を計画しましたが、クラスター発生で断念しました。

・制限が緩和されると3~4人の小単位で、蜜を避けた日帰り行事も出来る様になり実施致しました。しあわせの村やネスタリゾート神戸、姫路セントラルパークなど、屋外で自然に触れる機会が増えました。

○寄贈

支援団体より運動器具を頂き、室内で体を動かすことが出来ました。

○健康

引き続き、感染対策を行い、災害の脅威から子ども達の「命を守る」という事のために『備え』を行いました。

令和 5年 6月 1日
主任指導員 小瀬 由香

2022年度（令和4年）「グループホーム和愛」事業報告書

男子グループホーム和愛では、高校生2名、小学生2名で生活しています。学校生活、私生活共に頑張っており、大きなトラブルもなく、基本的には穏やかに生活を送ることが出来ました。その要因としてはスポーツや勉強と各々に打ち込むものがあるからだと思います。好きなこと、やりたいことに打ち込む児童達は本当に輝いています。今しかできない経験、体験をサポートしていきたいと思っています。

自主・自発的な行動力が育ち、子どもたちをいい方向に導けるよう支援し、子どもたちがこれからも安心安全な生活を送られるよう努めます。

令和 5年6月1日

男子グループホーム和愛担当 平田 椋太郎

2022年度（令和4年）「グループホーム友愛」事業報告書

グループホーム友愛は高校3年生1名・高校2年生2名・高校1年生1名の計4名で生活していました。高校3年生の児童は目指していた大学に進学し、春から京都で1人暮らしを始めました。1人暮らしに必要なことをリストにし、本児と職員で共有しながら退所に向けて準備しました。

高校2年生2名・高校1年生1名は無事進級しました。学業に励みながらバイトをして、自立のために必要なお金を稼がないといけない状況でしたが諦めずに頑張ってくれたと感じています。一緒に生活していく中で、職員主体ではなく子ども主体でやるべきことの順位を自分で考えられるように支援を行いました。子どもとの多くのぶつかりはありましたが、個々の個性が存分に発揮された1年だったと思います。

令和 5年6月1日
グループホーム友愛担当 小金谷 知代

2022年度（令和4年） 防犯・防災報告書

目 的

施設に入所している児童の安全を向上させるため、防災・防火の訓練に努めることを目的とし、職員個々の防災・防火への意識の向上を行うものとする。

① 施設内避難訓練

令和4年4月～令和5年2月 毎月1回

| | |
|-----|---------------------------------------|
| 4月 | 避難経路・避難場所・役割分担の確認 |
| 5月 | 消火器の種類や使い方を習得する。 |
| 6月 | 初期消火の大切さ学ぶ |
| 7月 | 避難の際の重要事項の習得する。 |
| 8月 | 生活レベルでの自然発火について学ぶ。 |
| 9月 | 避難の際の注意事項の再確認 |
| 10月 | 火災の怖さを知ってもらう |
| 11月 | 舎内での出火の際の危険箇所の認識 |
| 12月 | 防犯装置・非常火災報知設備の使い方を確認する。 |
| 1月 | 地震の際の避難方法を伝え、阪神大震災の経験を元に自身の怖さを知ってもらう。 |
| 2月 | 台風災害・津波の災害についても理解してもらう |
| 3月 | 総合防災訓練行い、総体的で実践的な訓練を行う。 |

訓練内容：避難訓練・消火訓練・避難誘導訓練及び点呼

② 施設内自主点検

令和4年4月～令和5年3月 毎週1回

③ 自衛総合防災訓練 令和5年3月 年1回

避難訓練・消火訓練・通報訓練

④ 消防用設備点検（有限会社カンバラ依頼）

令和4年6月・12月

⑤ 防犯に関する訓練 年1回（7月）

令和5年6月1日

防災・防犯担当：中林 晃一

2022年度（令和4年）心理療法実施報告書

【対象児童】

対象となった子どもは20名（内訳は以下の通り）。

| | 身体的虐待 | 保護の怠慢・拒否 | 性的虐待 | 心理的虐待 | ひきこもり | その他 | 計 |
|------|-------|----------|------|-------|-------|-----|----|
| 就学前 | | 1 | | | | | 1 |
| 小学生 | | 6 | | 2 | | | 8 |
| 中学生 | | 1 | 1 | | | | 2 |
| 高校生等 | 5 | 2 | 1 | 1 | | | 9 |
| 計 | 5 | 9 | 1 | 3 | | | 20 |

【個別セラピー】

基本的に1人、週1回、50分のセラピーを実施。年間で20名の児童に対し合計499回。

【グループセラピー】

3グループ、各グループ月1回、40～50分、セラピスト2名、担当ケアワーカー1名、メンタルフレンド1～2名が参加して、性教育、行動統制ワーク等のグループを実施。

| | |
|-------------|------|
| 小学低学年男女（3名） | ： 8回 |
| 小学高学年男女（4名） | ： 8回 |
| 中高校生男子（3名） | ： 7回 |
| 合 計 | 23回 |

【メンタルフレンド】

神戸大学大学院生12名の実習生および臨床心理1名のボランティアによるメンタルケアを実施。

【その他】

心理療法士の職員会議およびケース検討会への参加：43回
 スーパービジョン（助言および指導）の実施：435回
 通所・通院（精神科）への付き添いと他機関の心理士および精神科医との連携：9回
 生活場面面接：61回を行う。
 大学院実習生の指導：228回を行う。
 卒園生へのアフターケア：85回を行う。
 初級職員への心理面談：2022年4月～2023年3月の間で3名に対して計35回実施。

令和 5年6月1日

愛神愛隣舎 心理室 本田 浩子